

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□上□

六十三年度釧新郷土芸術賞の受賞者が決まった。絵画部門は昨年度の吾孫子雄子さんに続き加賀谷孝子さんが受賞、二年連続女性の受賞となった。音楽部門はチェロと琴による二重奏曲「春採の秋」で知られる地元作曲家で景雲中学教諭の泉史夫さん。また、舞踊部門から海外公演を含めて幅広く活躍、後継者の育成に力を注いでいる舞踊家の藤間真三代さんの合わせて三人に贈られる。二十六日の贈呈式を前に喜びの受賞者の横顔を紹介する。

米坂、中江氏に師事

「賞というものに縁がないの、れからこの肩書がついて回る

で、こんな大きな賞をもらえなくて恥ずかしくない制作をし、に余裕が持てるようになり、てうれしい」と喜びをあふれなければ」と決意を新たにし、何かをやってみようと思った

人間テーマに追求

「創造する感性」磨きに意欲

時に妹が入っている絵画サークルに誘われたのがきっかけだった。公民館の成人学校、路電報電話局に勤務し、父親福祉会館のアトリエ成画会に入会した。この絵にも一度はめたのは、二十三歳の頃「ちようど仕事に馴れてきて時間があつたが、米坂ヒデノリ氏のデッサン教室に通い、彫塑のオリエンタル・アカデミー

「人間」をテーマに追求している加賀谷さん

絵画

加賀谷孝子さん

釧路市武佐4の7の15

1・デ・ボザールに入校、週二回、中江氏に教わりながら創作活動を続けている。土曜日には、児童絵画教室で中江氏の助手を務めている。

今年1月に初の個展を開催

五十八年に釧路美術協会会員。同年全道展に初入選した。以後、六十一、二、三年と四回連続入選している。初入選後「入選するのが目的のよう

道は自分で見きわめなければならぬ」と語り、次の個展への意欲を燃やす。仕事をしながらの創作活動は大変で、時間が足りないが、「もっと幅広く、いろいろな手がけて、創造する感性を磨いていきたい」—あなたに



木崎征夫

